JT（2914）過去最大7,240億円の赤字と減配｜それでも買いか

ボタラボ投資研究所｜2026年11月22日｜株価は2026年11月20日終値5,265円（-10.11%）、業績・配当はJTの2026年11月19日開示

項目	前回予想（10/29）	修正後	ポイント
売上収益	3兆9,030億円	3兆8,400億円	-1.6%。大きくは崩れていない
調整後営業利益	1兆790億円	1兆470億円	-3.0%。本業は1兆円超の黒字見通し
営業損益	1兆410億円の黒字	3,680億円の赤字	支配喪失損失 約1兆3,770億円が主因
最終損益	6,620億円の黒字	7,240億円の赤字	過去最大の赤字。下方修正幅1兆3,860億円
年間配当	272円	204円	期末136円→68円へ半減。前期実績234円からも減配
配当利回り	5.17%（旧予想・同株価）	3.87%	配当204円÷株価5,265円の計算値

何が起きたか

・ロシア大統領令（11月5日・6日署名）で、JTのロシア現地法人7社（販売・製造・孫会社5社）がロシア企業の一時管理下に。JTは実質的な経営権を失ったとして11月6日付で連結除外した。

・会社は「連結除外は法的所有権の放棄・売却・ロシア事業からの撤退を意味しない」と説明。ロシア事業は売上収益の約10%、調整後営業利益の約25%を占めていた。約4,000億円の現預金が連結から外れる見通し。

・筒井岳彦社長は「ロシアを除く2027～29年の年平均利益成長率は10%超の見込み」「来期は配当を204円から向上させる自信がある」と発言（公式予想ではない）。経営陣5人は基本報酬の50%を2カ月減額、代表取締役は2026年度賞与なし。

買える条件／買えない条件（ボタラボの判定）

・買える条件：①利回り4.5%が視野に入る株価水準（配当204円では約4,533円。4.0%は5,100円、5.0%は4,080円）まで調整する ②次の本決算で、ロシアを除く利益の成長と、来期配当204円以上の公式予想が確認できる ③ロシア事業で新たな損失・追加開示が出ない。

・買えない条件：①来期の配当予想が204円を下回る ②ロシアを除く本業の利益まで下方修正される ③下げ止まりが確認できない間（11月20日は出来高2,605万株で急落）。

・シナリオ：強気＝増配と本業成長の確認で信頼回復／中立＝利回り4%前後で材料待ち（ボタラボの軸）／弱気＝追加損失や来期減配で一段安。

出典：JT「通期連結業績予想及び配当予想の修正に関するお知らせ」「ロシア連結子会社の連結範囲からの除外に関するお知らせ」（2026年11月19日）、日本経済新聞（2026年11月19日・20日）、株価はstockanalysis.com価格履歴。本資料は情報提供であり、投資助言ではありません。